

無痛分娩 Q & A

「産みの苦しみ」という言葉があるように、分娩時には何らかの苦痛（産痛）がつきものです。しかし産痛の強さ・つらさは人それぞれに異なり、中には耐えがたい痛みでパニックになる方もおられます。無痛分娩はそのような「産みの苦しみ」を和らげるための手段です。その方法や利点・欠点などを Q&A 形式でまとめました。

Q1：無痛分娩とはどのようなものですか？

A1：麻酔などの手段を用いて産痛を緩和しながら分娩に至る取り組みを無痛分娩と呼びます。必ずしも完全に痛みがなくなることを意味するものではありませんが、多くの女性は苦痛から解放されて快適な出産を経験することができます。

Q2：どのような方法で痛みを取るのですか？

A2：背中の中深くに細いチューブを通して、そこから麻酔薬を注入して痛みの神経をブロックする方法（硬膜外麻酔）が主に用いられます。硬膜外麻酔が困難な場合には、効果は劣りますが麻薬系の鎮痛薬の注射によってもある程度の産痛緩和が得られます。

Q3 : どのような利点がありますか？

A3 : 産痛を取り除くことで出産への恐怖心を和らげ、心身の消耗を防ぎ、産後の回復を早めることが主な利点です。また痛みに伴う血圧上昇を軽減できますので、妊娠高血圧症候群や心臓病を合併している妊婦さんにも有利です。

Q4 : どのような欠点・危険がありますか？

A4 : 麻酔によって陣痛が弱まり分娩が長引いたり、胎児を娩出させるための補助手段（吸引分娩・鉗子分娩）が必要となったりすることがあります。帝王切開はさほど増えないといわれています。ごくまれに麻酔範囲が広がり過ぎたり、麻酔薬による中毒症状が現れたりして救急処置が必要となることがあります。

Q5 : どこで無痛分娩を受けられますか？

A5 : 無痛分娩には A4 で述べたリスクも伴いますので、麻酔科の専門医師か、あるいは十分な麻酔経験のある産婦人科医師がいて、緊急時の対応が可能な施設で実施されることが望ましいといえます。明和病院では麻酔科医師・産婦人科医師・助産師が協同して無痛分娩を提供しています。